



かしま

HOT 通信

11月号 Vol.346

令和3年(2021年)11月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
 ■発行/社団法人養生会
 〒971-8143
 福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
 tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
 かしま病院広報企画室(江坂 宛)まで
 r-esaka@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

1
2

巻頭特集

- ①「新任医師のご紹介」
- ②「日本医療機能評価機構
病院機能評価認定更新されました!」

糖尿病のおはなし

「どこでもできる!「アイソメトリックトレーニング」のすすめ」
 かしま糖尿病サポートチーム

3

コラム ひんがら目(173)

「やむにやまれぬ大和魂
 矢野康治財務次官の危惧と覚悟」
 呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

担当医変更・医師不在のお知らせ
 かしま荘通信

かしま病院の感染対策 アイガードの着用



今夏、市中では、新型コロナウイルス感染症が拡大しました。
 全職員対象に、少しでも感染リスクを減らす方法として、目の粘膜を守るためアイガードを装着しています。
 今後も、市中の感染状況を加味して対策を講じていきます。

アイガードには
 フェイスシールドや
 ゴーグル型のもの
 があります。



巻頭特集

① 新任医師のご紹介

総合診療科:永井 拓 医師

② 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定 更新されました!

私が家庭医の道を選んだ理由は、正しい医療情報を患者さんやご家族に提供しながら、今後の人生の過ごし方について一緒に悩むことができるからです。病気になる現代でスマホで簡単に検索できる現代で

初めまして、医師3年目の永井拓と申します。10月より当院総合診療科で後期研修をさせて頂いておられます。今年の4月に入職した藤井医師と同期であり、福島県立医科大学地域・家庭医療学講座に所属しております。
 北海道札幌市出身で、大学入学後は初期研修時代を含め8年半福島市に住み、今回いわき市にお邪魔する運びとなりました。北海道は海のイメージが大きいかと思いますが、札幌市の山が多い地域で暮らす期間が長かったため、車を10分走らせれば海岸という場所に住む経験は初めてであり、とても新鮮な気持ちです。海の幸が美味しいと伺っておりますので、これからご飯をいただくのが楽しみです。



は、雑多な医療情報が錯綜しています。今回のコロナ禍でも怪しい情報がたくさん出回ったかと思えます。私自身も身近な人が誤った医療情報に振り回されてしまった経験があり、少しでもそのような方を減らすことができればと考え、家庭医療の門を叩きました。
 同じ病気にかかった方でも、それぞれの感じ方・考え方・社会背景があり、その答えは十人十色です。まだまだ未熟者ではありますが、患者さんやご家族の人生に寄り添える医師になれるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。



永井 拓 (ながいたく)

総合診療科

特集① 新任医師のご紹介

10月より、永井拓医師が当院の総合診療科にて約1年半後期研修を行います。
 永井医師より着任の挨拶をいただきました。

認定証



「病院機能評価」って何？
 「病院機能評価」・「と云われても、初めて聞いた方も多いいのでは？」
 「病院機能評価」について説明いたします。

※この「機能」とは病院が備えている働きです。つまり、診療・看護・リハビリ・検査・事務など各部門が果たしている役割のことです。

ちょっと待って～

特集②

日本医療機能評価機構
 病院機能評価
 認定更新されました!

かしま病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受け、平成17年10月に認定病院として登録。令和3年10月に4回目の認定が更新されましたのでお知らせいたします。

評価項目



地域の皆さんが安心して安全な医療が受けられるよう、病院全体の運営管理の状況や提供している医療サービスについて評価されます。

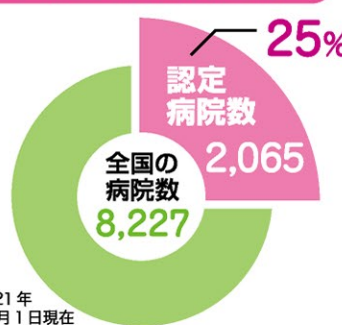
★ 病院機能評価とは？
 病院機能評価とは病院の質改善活動を支援するツールです。つまり、病院がもっと良くなるように外部の専門家に評価してもらいことです。

★ 何を評価するの？
 地域の皆さんが安心して安全な医療が受けられるよう、病院全体の運営管理の状況や提供している医療サービスについて評価されます。

訪問審査から認定まで



全国の認定病院の数



★ 認定病院とは？
 評価の結果、一定の水準を満たした病院は「認定病院」となります。認定期間は5年間です。認定が更新されると認定証の星☆が増えます。認定病院はその地域に根ざし、安心・安全な医療サービスを提供できるよう探求し、努力することが求められます。

★ 評価してくれるのはだれ？
 院長や看護部長、事務長などの経験を持つ人が、サーベイヤ(審査員)となります。

このように第三者から病院をくまなく見てもらい、良い点・改善点をそれぞれ見つけてもらいます。良い点は伸ばせば良いですし、改善点は改善していくことで、より良い病院に生まれ変わるきっかけを作ることができます。

職員の間にもつながる
 第三者である専門家から指摘されることにより、問題点について共通した認識を持つことができます。働く職員の改善意欲が向上して主体的な取り組みが期待できます。

改善すべき問題点が明確になる
 評価を受けることにより、良い点や改善すべき点が具体的に把握することが出来ます。

業務改善のきっかけづくりになる
 評価を受けるための準備が改善のきっかけとなります。医療の質の向上と効果的なサービスの改善につながります。

★ 病院機能評価を受けるメリット
 改善すべき問題点が明確になる
 評価を受けることにより、良い点や改善すべき点が具体的に把握することが出来ます。

かしま病院は「地域医療と全人的医療の実践」の理念の下、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを提供するため、自ら努力すると共に、更に効果的な取り組みとするために「病院機能評価」を受審しています。次回、更新は2025年(令和7年)頃となります。

今後も患者さん及びご家族の方によりご満足いただけるよう改善活動を推進して参ります。

● 病院機能評価事業
<https://www.jq-hyouka.jcqhcc.or.jp/>

★ 訪問審査は丸二日間
 申込↓受審準備↓書面審査↓訪問審査が主な流れです。訪問審査は病院の医師・看護師・事務職等との面接やサーベイヤが病院内を巡回し、丸二日間かけてじっくりと評価します。



ようこそ 家庭医療へ!

第141回 かしま病院の使命 ①

“めんどろみの良い病院”

診療部 石井 敦



～ いわきに生きる家庭医療への挑戦 ～



かしま病院は、1983年に地域の開業医10数名が理事となり結束して作り上げた、地域のための病院です。「地域医療と全人的医療の実践」を理念とし、予防から在宅まで地域の方を総合的に支えています。

193床の中小病院ですが、同一敷地内に、地域リハビリテーション広域支援センター・介護医療院・健診センター・居宅介護支援事業所・在宅本部・ヘルパーステーション・特別養護老人ホーム・グループホームなど、医療・介護・福祉に関し、地域の患者さんに必要な機能の全てが揃い、それぞれの施設同士、顔も心（腹の内：普段の仕事ぶりや考え方）も見える関係で、シームレスな連携が可能となっています。

これらの多機能をフル活用し、利用者にとって“めんどろみの良い病院”をミッションとしてとらえ、かしま病院だからこそ、地域のためにできることを日々探求しています。

現在の地域医療における喫緊かつ最重要な課題として超高齢社会への対応が挙げられます。後期高齢者の増加は、介護や医療のニーズの増加や、求められるケアの内容の変化をもたらします。多疾患併存患者、体力低下や寝たきりの状態にある高齢者、認知症患者数が更に増えることが想定され、患者の家族の負担を軽減するためにも、介護と医療を併せたサービスの提供が急務です。

また、多疾患を包括的に管理できる能力を持つ医師、治療困難で終末期にある患者には、“治す医療”よりも“癒し支える医療”に重きを置き、看取りを念頭に、責任をもって ACP（人生会議）をサポートする医師が求められます。

しかし、これまでの我が国の医師教育は臓器別に専門分化されたものが主体であったため、超高齢社会で求められる能力について十分なトレーニングを受けた医師の絶対数が、諸外国に比べて極端に少ない現状です。

総合診療科では、常勤指導医・専攻医が、それぞれ2～3名所属し、約1900名/月の外来患者と30～40名/月の入院患者を担当しています。外来・入院診療いずれも、多疾患併存患者や身体機能低下、認知症などにより、要介護状態にある患者に対して、総合的なケアが求められるケースが増えている印象です。その多くは、治療困難な病態にあり、いずれ終末期に向かっていきます。その際には、看取りを念頭に責任をもって ACP をサポートし、積極的な救命処置や延命治療を希望されない場合には、住み慣れた環境でのケアが継続できるよう、訪問診療を導入します。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第128回

口の健康

皆さんは、「オーラルフレイル」という言葉を聞いたことがありますか?簡単にいうと、「口の衰え」「口の脆弱」という意味です。口の筋肉が衰えてくると、食べこぼしや滑舌が悪くなります。また、汁物やお茶でむせることが多くなったり、硬いものが

噛みにくくなったりします。そうすると、徐々に食べる意欲がなくなり、エネルギーや筋肉をつくるタンパク質の摂取量が減ってしまい、結果的に筋力低下へとつながります。つまり、口の衰えが身体の衰えの始まりというわけです。逆を言えば、オーラルフレイルを予防すれば、身体の衰えも予防できるということです。

オーラルフレイルの予防には、バランスのとれた食事、運動、社会参加、口腔ケアなどがあります。糖質や炭水化物などの柔ら

かい食事が増えると、噛む回数が少なくなり、唾液も減少します。そうすると、口の中は不潔になり感染症のリスクも高まります。また、高齢になると人と会うのが億劫になるという方もいます。人と一緒に食事をしたり、話したりすることは口の健康にとって大切なことです。そして、よく噛む、よく話すには、健康な歯が必要です。適切な歯磨きや定期的な歯科検診が虫歯や歯周病のリスクを下げてください。言語聴覚士が実施している口腔体操も口の筋肉の衰えを予防してくれます。

オーラルフレイルとは、健康と機能障害との中間にあり、早めに気づき適切な対応をすることで、元の健康な状況に戻すことができます。オーラルフレイルを予防して、健康寿命を延ばしましょう。

言語聴覚士 淡路 未有



かしま荘通信

敬老会

9/20(月)



9月20日、毎年恒例の敬老会が開催されました。去年同様、新型コロナウイルスに伴い規模を縮小して開催いたしました。

賀寿者の方々をご紹介しその後、家族会会長の水谷様よりお祝いを贈呈していただき皆さま大変喜んでおられました。その後、入居者様同士で、ケーキやコーヒーを召し上がっていただき楽しい時間を過ごされておりました。



information

担当医変更・医師不在のお知らせ



整形外科担当医 変更のお知らせ

11月より、毎月第1・3・5土曜日の診察の担当医は長崎 計医師となります。

(第2・4土曜日の診察は休診となります)



安斎勝行医師 不在のお知らせ

11月11日(木)～16日(火)

11月25日(木)～30日(火)

の期間は不在となります。

